

事業評価（案）

評価時点：事後評価

計画名称：社会資本総合整備計画事業

- ・安心・安全なみちづくり（第2期）（防災・安全）
- ・生活空間における交通安全対策（防災・安全）

《建設局土木部道路環境課》

公共事業評価調査《事後評価・社会資本総合整備計画事業》

(1) 概要														
計画(事業)の名称		安心・安全なまちづくり (第2期) (防災・安全)												
計画(事業)の期間		平成29年度 ~ 令和3年度 (5年間)												
計画の目標		通学路などにおける歩行者・自転車の通行空間確保や住宅地における面的な交通安全対策の実施、適切な道路施設の維持管理及び防災も含めた住環境の改善を推進することで、誰もが安心・安全で通行できるまちづくりを目指す。												
計画の成果目標 (定量的指標)		<ul style="list-style-type: none"> 市内における平成24年から平成28年までの5年間における交通事故数の平均値に対して10%低減する。 広域ネットワークである埼玉県緊急輸送道路及び鉄道や高速道路を跨ぐ耐震補強対象橋梁の整備率の向上を図る。 大規模災害時に災害リスクが高いことが判明した地区住民に対し、住民自ら地区の災害リスクを周知できる人数の割合を向上させる。 												
定量的指標 の定義及び 算定式			定量的指標の現況値及び目標値											
			当初現況値	中間目標値		最終目標値								
			(年度)	(年度)		(年度)								
	指標①	対象期間内における市内の交通事故件数の低減率 $\left\{ 1 - \frac{\text{交通事故件数}}{\text{H24からH28までの交通事故件数の平均値}} \right\} \times 100$	0%	5%		10%								
指標②	対象橋梁の耐震補強の整備率 (完了橋梁数/対象橋梁数(44橋)) × 100 (%)	70%	80%		82%									
指標③	災害リスクを周知できる人数の割合 (説明会等によって災害リスク情報を周知した世帯数) / (災害リスクが高い地区における全世帯数)	3%			47%									
全体事業費	合計(A+B+C)	3,589 (百万円)	A	3,588 (百万円)	B	(百万円)	C	1 (百万円)						
(2) 事業効果の発現状況、目標値の達成状況														
I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況		市内の交通事故件数については、歩道整備やゾーン30整備等の生活道路の交通安全対策を実施したことにより、40%低減し、目標を達成した。また、橋梁の耐震補強については、計画的に実施し、最終目標値の82%を達成した。また、災害リスクの周知については、都市防災総合推進事業(災害危険度判定調査)により、市内の延焼リスクと避難困難リスクの変化を継続的にモニタリングするだけでなく、調査結果を用いてWebGISのデータを作成し、市HPにおいて「防災まちづくり情報マップ」として市民に広く災害リスクを周知することができた。また、都市防災総合推進事業(住民等のまちづくり活動支援)により、1自治会において防災まちづくりに係る勉強会やまち歩きを継続的に実施し、その成果として災害リスクの改善方策を盛り込んだ地区の防災まちづくり方針を取りまとめ、当該自治会に加入する全世帯(約460世帯)に配布して、地区住民の防災意識の向上を図ることができた。												
II 定量的指標の達成状況	指標①	最終目標値	10%	目標値と実績値に差が出た要因	最終目標値を達成した。なお、最終目標値を大幅に上回る結果となった要因として、新型コロナウイルス感染症の拡大により、人々の生活様式に変更が生じ、人の移動の機会が減少したことや、本計画の要素事業以外による交通安全対策効果が影響したものと考えられる。									
		最終実績値	40%											
	指標②	最終目標値	82%	目標値と実績値に差が出た要因										
		最終実績値	82%											
	指標③	最終目標値	47%	目標値と実績値に差が出た要因						災害リスクが高い地区にある66の自治会の内、約9割に当たる60自治会に対して説明会(出前講座)を実施し、災害リスクの周知を図ることはできたが、当初の想定よりも説明会への参加者が少なかったことや、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により周知活動に制約があったことなどが要因と考えられる。				
		最終実績値	11%											
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)		都市防災総合推進事業(地区公共施設等整備)を活用し、災害リスクの高い地区において防災活動の拠点となる公園を整備するための用地(1.4ha)を取得した。												
(3) 今後の方針														
<ul style="list-style-type: none"> ・ 交安事業については、安心で安全な生活空間の確保のため、引き続き国土交通省所管の個別補助事業又は社会資本総合整備交付金を活用し、整備推進に努める。 ・ 橋梁の耐震化事業については、国土強靱化のための5か年加速化対策においても対策内容として掲げられていることから引き続き国土交通省所管の個別補助事業を活用し、引き続き整備推進に努める。 ・ 今後も都市防災総合推進事業(災害危険度判定調査、住民等のまちづくり活動支援)を活用し、把握した災害リスク情報の周知啓発活動を行うとともに、災害リスクの高い地区の住民に対するまちづくり活動支援を行うなど、災害リスクの改善に繋がる取組を継続して実施していく。 														

(4) 交付対象事業の詳細											
A 道路事業 (基幹事業)											
番号	要素となる事業名 (事業箇所)	事業種別	事業内容 (延長・面積等)	事業実施年度					全体事業費 (百万円)	備考	
				H29	H30	R1	R2	R3			
1	(国) 463号ほか舗装修繕	道路	舗装修繕			■	■	■	■	390	
2	(主) さいたま川口線ほか舗装修繕	道路	舗装修繕			■	■	■	■	1,560	
3	(主) 川口上尾線・神明跨線橋	道路	耐震補強		■					150	
4	(主) さいたま春日部線・加茂川橋	道路	耐震補強			■				140	
5	(一) 新方須賀さいたま線・永代橋	道路	耐震補強		■					50	
6	路面性状調査	道路	路面性状調査			■	■	■	■	27	
7	路面性状調査 (補助国道)	道路	路面性状調査			■	■	■	■	6	
8	路面下空洞調査	道路	路面下空洞調査			■	■	■	■	42	
9	路面下空洞調査 (補助国道)	道路	路面下空洞調査			■	■	■	■	9	
10	道路照明施設点検	道路	道路照明施設点検			■	■	■	■	120	
11	道路照明施設点検 (補助国道)	道路	道路照明施設点検			■	■	■	■	30	
12	道路標識・道路情報板点検	道路	道路附属物点検			■				6	
13	道路標識・道路情報板点検 (補助国道)	道路	道路附属物点検			■				4	
14	七夕通り	道路	無電柱化	■						0	
15	ゾーン30対策事業	道路	区画線工等、28地区、 A=100ha	■						0	
16	自転車通行環境整備事業	道路	区画線等		■	■	■	■	■	116	
17	(市) 11057号線 (東大宮)	道路	バリアフリー		■					6	
18	(市) 11055号線 (東大宮)	道路	バリアフリー			■				10	
19	都市防災総合推進事業 災害危険度判定調査、住民等のまちづくり活動支援	—	災害危険度判定調査、住民等のまちづくり活動支援	■	■	■	■	■	■	24	
20	都市防災総合推進事業 地区公共施設等整備	—	防災活動拠点の整備 (公園整備)						■	898	
21											
22											
23											
24											
25											
26											
27											
28											
29											
30											
31											
合計 (道路事業)									3,588		

(様式2)

B 関連社会資本整備事業											
1											
2											
3											
									合計		
C 効果促進事業											
1	都市防災総合推進事業	—	さいたま市防災都市づくり計画総合評価							1	
2											
3											
									合計	1	

担当部局	建設局土木部道路環境課 TEL : 829-1490 FAX : 829-1988 E-mail : doro@city.saitama.lg.jp
------	---

公共事業評価調書《事後評価・社会資本総合整備計画事業》

(1) 概要									
計画(事業)の名称		生活空間における交通安全対策（防災・安全）							
計画(事業)の期間		平成29年度 ～ 令和3年度（5年間）							
計画の目標		歩行空間の確保等の通学路における安全対策、踏切道の安全対策を実施することにより、安心して安全な生活空間を確保する。							
計画の成果目標 (定量的指標)		・市内における平成24年から平成28年までの5年間における交通事故数の平均値に対して10%低減する。							
		・緊急に対策が必要な踏切における安全対策実施率の向上を図る。							
定量的指標 の定義及び 算定式	指標①	対象期間内における市内の交通事故件数の低減率 $\left\{ 1 - \frac{\text{交通事故件数}}{\text{H24からH28までの交通事故件数の平均値}} \right\} \times 100$			定量的指標の現況値及び目標値				
					当初現況値	中間目標値	最終目標値		
		(年度)	(年度)	(年度)					
	指標②	緊急に対策が必要な踏切の対策実施率 (対策実施踏切数/対象踏切数) × 100 (%)			0%	12%	25%		
指標③									
全体事業費	合計(A+B+C)	18,906 (百万円)	A	18,906 (百万円)	B	(百万円)	C	(百万円)	
(2) 事業効果の発現状況、目標値の達成状況									
I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況		歩道整備やゾーン30整備等の生活空間における交通安全対策を実施したことにより、市内の交通事故件数は40%低減し、最終目標値を達成した。 緊急に対策が必要な踏切については、鉄道事業者と円滑に協力を図り、計画的に対策を実施したため、最終目標値を達成した。							
II 定量的指標の達成状況	指標①	最終目標値	10%	目標値と実績値に差が出た要因	最終目標値を達成した。なお、最終目標値を大幅に上回る結果となった要因として、新型コロナウイルス感染症の拡大により、人々の生活様式に変更が生じ、人の移動の機会が減少したことや、本計画の要素事業以外による交通安全対策効果が影響したものと考えられる。				
		最終実績値	40%						
	指標②	最終目標値	25%	目標値と実績値に差が出た要因					
		最終実績値	25%						
	指標③	最終目標値	%	目標値と実績値に差が出た要因					
		最終実績値	%						
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)									
(3) 今後の方針									
安心して安全な生活空間の確保のため、引き続き国土交通省所管の個別補助事業又は社会資本総合整備交付金を活用し、整備推進に努める。									

(様式2)

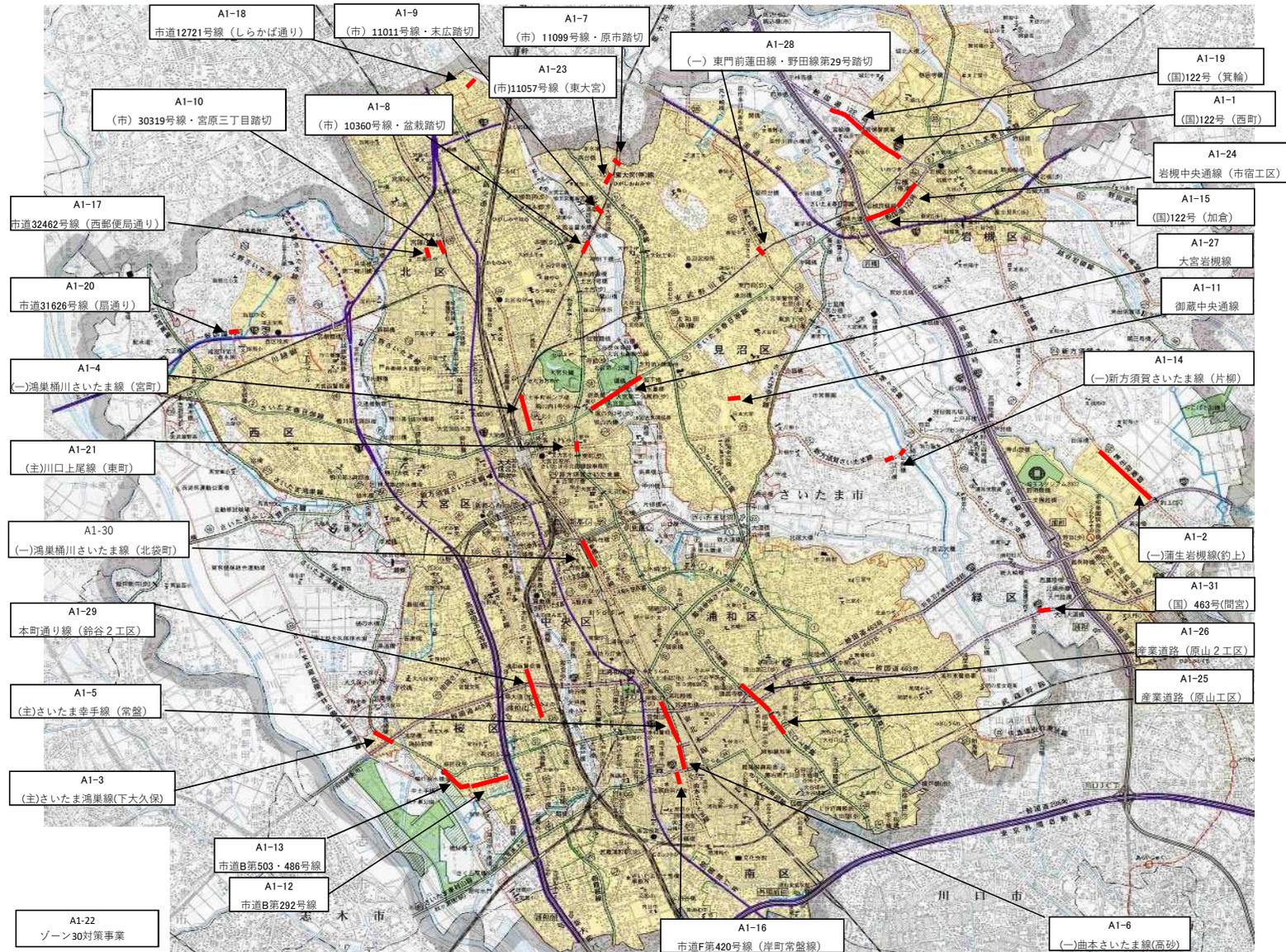
(4) 交付対象事業の詳細

A 道路事業(基幹事業)

番号	要素となる事業名 (事業箇所)	事業種別	事業内容 (延長・面積等)	事業実施年度					全体事業費 (百万円)	備考
				H29	H30	R1	R2	R3		
1	(国)122号線(西町)	道路	歩道整備 L=0.7km	■	■	■	■	■	308	
2	(一)蒲生岩槻線(釣上)	道路	歩道整備、自転車通行環境 L=1.4km		■	■	■	■	164	
3	(主)さいたま鴻巣線(下大久保)	道路	自歩道整備L=0.7km		■	■	■	■	160	
4	(一)鴻巣桶川さいたま線(宮町)	道路	歩道整備、自転車通行環境、無電柱化0.6km		■	■	■	■	2,622	
5	(主)さいたま幸手線(常盤)	道路	歩道整備、自転車通行環境、無電柱化0.8km	■	■	■	■	■	2,388	
6	(一)曲本さいたま線(高砂)	道路	歩道整備	■					20	
7	(市)11099号線・原市踏切	道路	踏切改良	■					30	
8	(市)10360号線・盆栽踏切	道路	踏切改良			■	■		230	
9	(市)11011号線・末広踏切	道路	踏切改良					■	170	
10	(市)30319号線・宮原三丁目踏切	道路	踏切改良			■	■	■	170	
11	御蔵中央通線	道路	自歩道整備 L=0.24km	■	■	■	■		272	
12	(市)B第292号線	道路	自歩道整備 L=0.60km			■			42	
13	(市)B第503・486号線	道路	自歩道整備 L=0.90km	■	■				144	
14	(一)新方須賀さいたま線(片柳)	道路	自歩道整備 L=0.2km					■	10	
15	(国)122号(加倉)	道路	自歩道整備 L=0.5km			■	■	■	120	
16	(市)F第420号線(岸町常盤線)	道路	自歩道整備 L=0.08km	■	■	■			97	
17	(市)32462号線(西郵便局通り)	道路	自歩道整備 L=0.5km		■	■	■	■	1,047	
18	(市)12721号線(しらかば通り)	道路	自歩道整備 L=0.3km		■				0	
19	(国)122号(箕輪)	道路	自歩道整備 L=0.7km	■	■	■			297	
20	(市)31626号線(扇通り)	道路	自歩道整備 L=0.1km		■	■	■		38	
21	(主)川口上尾線(東町)	道路	交差点改良		■	■	■	■	892	
22	ゾーン30対策事業	道路	区画線工等、28地区、A=1000ha		■	■	■	■	350	
23	(市)11057号線(東大宮)	道路	バリアフリー			■			40	
24	岩槻中央通り線(市宿工区)	道路	現況拡幅 L=0.6km			■	■	■	96	
25	産業道路(原山工区)	道路	現況拡幅 L=0.4km			■	■	■	1,002	
26	産業道路(原山2工区)	道路	現況拡幅 L=0.6km			■	■	■	6,401	

参考図面

計画の名称	生活空間における交通安全対策（防災・安全）		
計画の期間	平成29年度 ～ 令和3年度（5年間）	交付対象	さいたま市



(事後評価)

説 明 資 料

さ い た ま 市
公 共 事 業 評 価 審 議 会
(令 和 5 年 度)

社会資本総合整備計画

- 安心・安全なみちづくり(第2期)(防災・安全)
- 生活空間における交通安全対策(防災・安全)

令和6年1月26日

建設局 土木部 道路環境課

1. 計画の概要

■ 2つの計画の関係性

「安心・安全なみちづくり(第2期)(防災・安全)」の要素となる事業を一部「生活空間における交通安全対策(防災・安全)」へ移行しており、同様の計画成果目標としている。

計画名称	安心・安全なみちづくり（第2期）（防災・安全）	計画名称	生活空間における交通安全対策（防災・安全）
計画期間	平成29年度 ～ 令和3年度	計画期間	平成29年度 ～ 令和3年度
計画成果目標	<p>①市内における平成24年から平成28年までの5年間における交通事故数の平均値に対して10%低減する。</p> <p>②広域ネットワークである埼玉県緊急輸送道路及び鉄道や高速道路を跨ぐ耐震補強対象橋梁の整備率の向上を図る。</p> <p>③大規模災害時に災害リスクが高いことが判明した地区住民に対し、住民自ら地区の災害リスクを周知できる人数の割合を向上させる。</p>	計画成果目標	<p>①市内における平成24年から平成28年までの5年間における交通事故数の平均値に対して10%低減する。</p> <p>②緊急に対策が必要な踏切における安全対策実施率の向上を図る。</p>

1. 計画の概要

計画の名称	安心・安全なみちづくり（第2期）（防災・安全）
計画の期間	平成29年度 ～ 令和3年度（5年間）
計画の目標	◇通学路などにおける歩行者・自転車の通行空間確保や住宅地における面的な交通安全対策の実施、適切な道路施設の維持管理及び防災も含めた住環境の改善を推進することで、誰もが安心・安全で通行できるみちづくりを目指す。
計画の成果目標 （定量的指標）	①市内における平成24年から平成28年までの5年間における交通事故数の平均値に対して10%低減する。 ②広域ネットワークである埼玉県緊急輸送道路及び鉄道や高速道路を跨ぐ耐震補強対象橋梁の整備率の向上を図る。 ③大規模災害時に災害リスクが高いことが判明した地区住民に対し、住民自ら地区の災害リスクを周知できる人数の割合を向上させる。
全体事業費	3,589 百万円

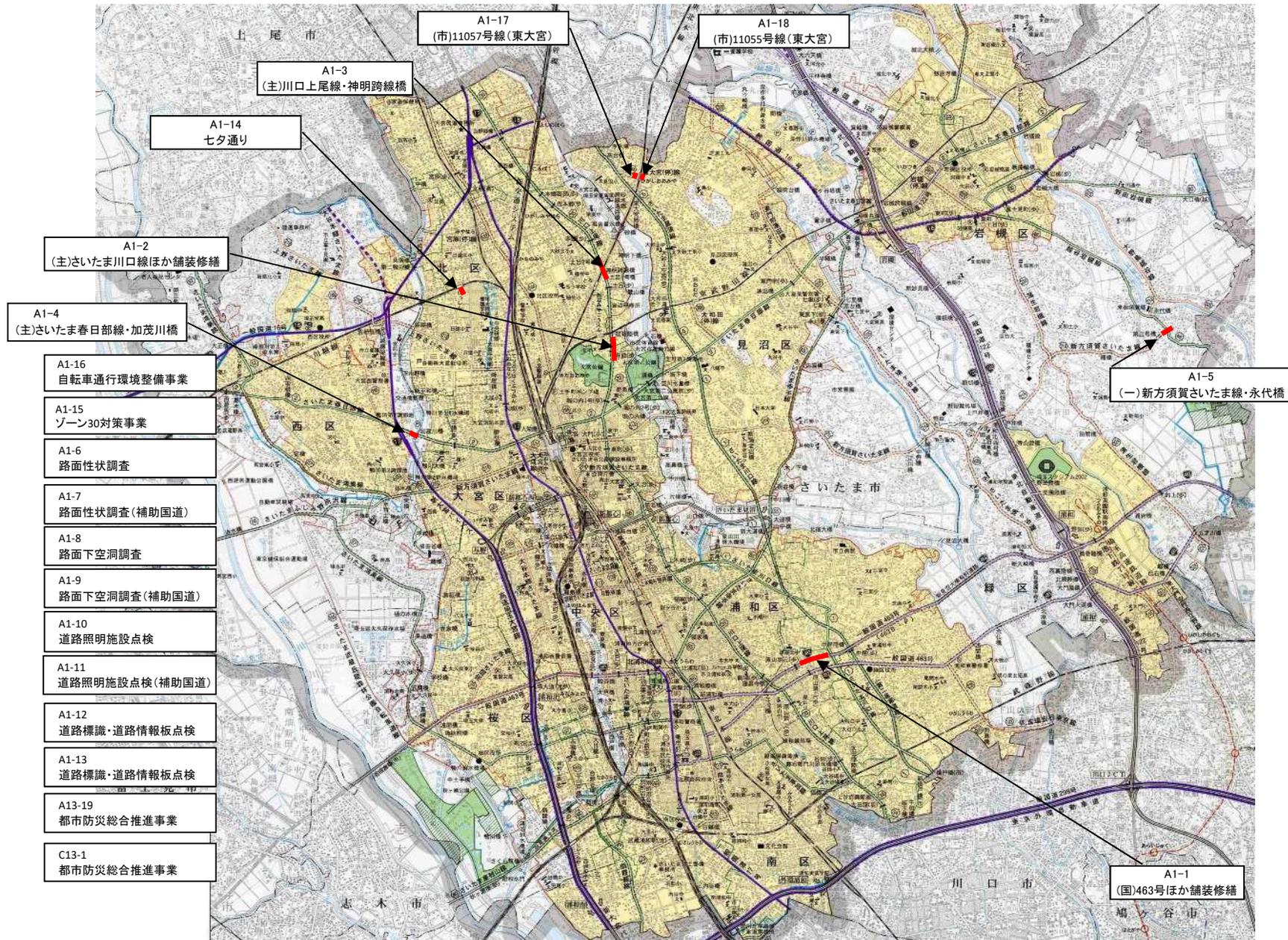
1. 計画の概要

■要素となる事業

	事業名（事業箇所）	事業内容	全体事業費 （百万円）	実施期間（年度）					備考
				H29	H30	H31	R2	R3	
1	（国）463号ほか舗装修繕	舗装修繕	390			■	■	■	
2	（主）さいたま川口線ほか舗装修繕	舗装修繕	1,560			■	■	■	
3	（主）川口上尾線・神明跨線橋	耐震補強	150		■				
4	（主）さいたま春日部線・加茂川橋	耐震補強	140			■			
5	（一）新方須賀さいたま線・永代橋	耐震補強	50		■				
6	路面性状調査	路面性状調査	27			■	■	■	
7	路面性状調査（補助国道）	路面性状調査	6			■	■	■	
8	路面下空洞調査	路面下空洞調査	42			■	■	■	
9	路面下空洞調査（補助国道）	路面下空洞調査	9			■	■	■	
10	道路照明施設点検	道路照明施設点検	120			■	■	■	
11	道路照明施設点検（補助国道）	道路照明施設点検	30			■	■	■	
12	道路標識・道路情報板点検	道路附属物点検	6			■			
13	道路標識・道路情報板点検（補助国道）	道路附属物点検	4			■			
14	七夕通り	無電柱化	0	■					
15	ゾーン30対策事業	区画線工等、 28地区、A=100ha	0	■					重点計画(生活空間における交通安全対策)へ移行
16	自転車通行環境整備事業	区画線等	116		■	■	■	■	
17	（市）11057号線（東大宮）	バリアフリー	6		■				重点計画(生活空間における交通安全対策)へ移行
18	（市）11055号線（東大宮）	バリアフリー	10			■			重点計画(生活空間における交通安全対策)へ移行
19	都市防災総合推進事業災害危険度判定調査、住民等のまちづくり活動支援	災害危険度判定調査、 住民等のまちづくり 活動支援	24	■	■	■	■	■	
20	都市防災総合推進事業地区公共施設等整備	防災活動拠点の整備 (公園整備)	898					■	

1. 計画の概要

■ 事業箇所



2. 事業の成果

■ (国) 463号ほか舗装修繕 事業期間：H31～R3 (計画：H31～R3)



整備前



事業内容	舗装修繕
全体事業費：A	390百万円
実施事業費：B	76百万円
事業の進捗率：C=B/A	約20%
総事業費の進捗率：D	100%

整備後



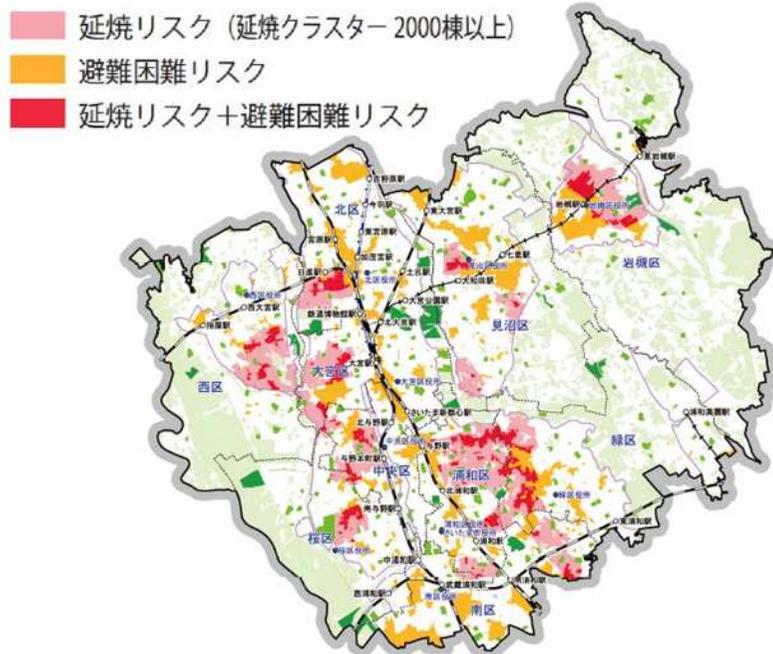
2. 事業の成果

■ 都市防災総合推進事業 事業期間：H29～R3（計画：H29～R3）

	①、②	③
全体事業費：A	24百万円	898百万円
実施事業費：B	23.5百万円	620.9百万円
事業の進捗率：C=B/A	約97.9%	約69.1%
総事業費の進捗率：D	100%	100%

①災害危険度判定調査

- ・災害リスク（延焼リスクと避難困難リスク）の変化を調査し、結果を「防災まちづくり情報マップ」として市HPに公開し、災害リスクを市民に広く周知



②住民等のまちづくり活動支援

- ・災害リスクの高い地区において勉強会やまち歩き等を実施し、地区の防災まちづくり方針の作成を支援



勉強会の様子



まち歩きの様子

③地区公共施設等整備

- ・災害リスクの高い地区において避難場所となる公園の整備用地を取得（1.4ha）



（仮称）埼玉県立総合教育センター跡地公園

3. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

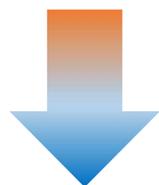
- 指標1：市内における平成24年から平成28年までの5年間における交通事故数の平均値に対して10%低減する。

対象期間内における市内の交通事故件数の低減率

$$= \left\{ 1 - \frac{\text{交通事故件数}}{\text{H24からH28までの交通事故件数の平均値}} \right\} \times 100$$

・目標値の達成状況

当初現況値 (H29当初)	最終目標値 (R3末)	→	最終実績値 (R3末)
0%	10%減		40%減



- ・一部の交通安全対策事業について平成30年度より下記整備計画へ統合
理由：国の社会資本整備総合交付金、防災・安全交付金における配分の考え方より、通学路の交通安全の確保に向けた取組については、重点配分対象となる。そのため、重点配分対象となる歩道整備や、踏切改良等の要素事業で構成される計画を一つの重点計画として統合した。

計画の名称	生活空間における交通安全対策（防災・安全）
計画の期間	平成29年度 ～ 令和3年度（5年間）

3. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

- 指標2：広域ネットワークである埼玉県緊急輸送道路及び鉄道や高速道路を跨ぐ耐震補強対象橋梁の整備率の向上を図る。

対象橋梁の耐震補強の整備率

$$= \left\{ \frac{\text{完了橋梁数}}{\text{対象橋梁数(44橋)}} \right\} \times 100 \quad (\%)$$

・目標値の達成状況

当初現況値 (H29当初)	最終目標値 (R3末)	最終実績値 (R3末)
70%	82%	82%

- 耐震補強については、計画的に実施し、最終目標値の82%を達成した。
- 対象橋梁(44橋)の耐震補強が完了に近づいたため、対象橋梁の範囲を拡大した第2期耐震補強計画を策定し、引き続き整備推進に努める。

3. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

- 指標3：大規模災害時に災害リスクが高いことが判明した地区住民に対し、住民自ら地区の災害リスクを周知できる人数の割合を向上させる。

災害リスクを周知できる人数の割合

$$= \left\{ \frac{\text{説明会等によって災害リスク情報を周知した世帯数}}{\text{災害リスクが高い地区における全世帯数}} \right\} \times 100 \quad (\%)$$

・目標値の達成状況

当初現況値 (H29当初)	最終目標値 (R3末)	最終実績値 (R3末)
3%	47%	11%

- 災害リスクが高い地区にある66の自治会の内、約9割に当たる60自治会を対象に地区の延焼シミュレーション動画を用いた説明会（出前講座）を実施して災害リスク情報を周知し、住民の防災意識啓発を行った。多くの自治会で説明会を実施したが、説明会への参加者が少なかったことや、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により説明会の開催に制約があったため、目標達成には至らなかった。
- 説明会（出前講座）以外に実施した取組
 - 平成29~30年度：災害リスクが高い地区の1自治会において、災害リスクを踏まえて防災まちづくりの方向性等をまとめた「防災まちづくり方針」の作成支援を実施（冊子は全戸配布）
 - 令和元年度：上記の取組の成果に基づき「防災まちづくり方針作成の手引き」の冊子を作成
 - 令和3年度：災害リスクの高い地区にある66自治会に、「防災まちづくり方針作成の手引き」の冊子や、防災まちづくり情報マップ（災害リスク公開用の市HPコンテンツ）の見方を示した資料を郵送し防災まちづくりの取組の促進を図った。別の1自治会において当該方針の作成に向けて勉強会等の取組を開始（R5年度中に方針作成予定）

1. 計画の概要

計画の名称	生活空間における交通安全対策（防災・安全）
計画の期間	平成29年度 ～ 令和3年度（5年間）
重点事業	○
重点要件	通学路交通安全プログラムに基づく交通安全対策
計画の目標	歩行空間の確保等の通学路における安全対策、踏切道の安全対策を実施することにより、安心して安全な生活空間を確保する。
計画の成果目標 （定量的指標）	①市内における平成24年から平成28年までの5年間における交通事故数の平均値に対して10%低減する。 ②緊急に対策が必要な踏切における安全対策実施率の向上を図る。
全体事業費	18,906百万円

■要素となる事業

事業名（事業箇所）	事業内容	全体事業費 （百万円）	実施期間（年度）					備考
			H29	H30	H31	R2	R3	
1 (国)122号線(西町)	歩道整備 L=0.7km	308	■	■	■	■	■	
2 (一)蒲生岩槻線(釣上)	歩道整備、自転車通行環境 L=1.4km	164		■	■	■	■	
3 (主)さいたま鴻巣線(下大久保)	自歩道整備L=0.7km	160		■	■	■	■	
4 (一)鴻巣桶川さいたま線(宮町)	歩道整備、自転車通行環境、 無電柱化0.6km	2,622		■	■	■	■	R3より個別補助へ移行
5 (主)さいたま幸手線(常盤)	歩道整備、自転車通行環境、 無電柱化0.8km	2,388	■	■	■	■	■	

1. 計画の概要

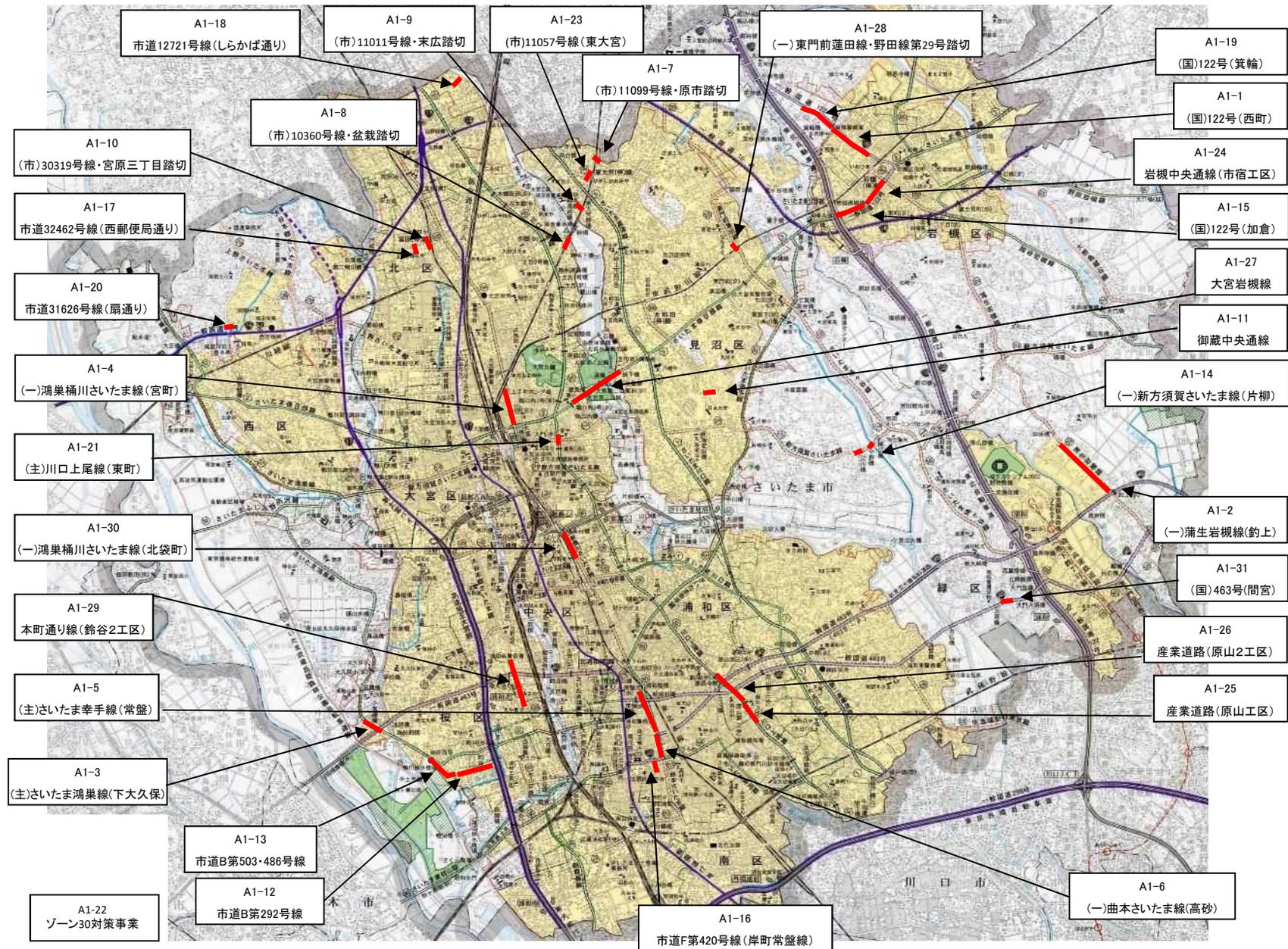
事業名 (事業箇所)	事業内容	全体事業費 (百万円)	実施期間 (年度)					備考
			H29	H30	H31	R2	R3	
6 (一)曲本さいたま線(高砂)	歩道整備	20	■					
7 (市)11099号線・原市踏切	踏切改良	30	■					
8 (市)10360号線・盆栽踏切	踏切改良	230			■	■		
9 (市)11011号線・末広踏切	踏切改良	170					■	R3より個別補助へ移行
10 (市)30319号線・宮原三丁目踏切	踏切改良	170			■	■	■	R3より個別補助へ移行
11 御蔵中央通線	自歩道整備 L=0.24km	272	■	■	■	■		
12 (市)B第292号線	自歩道整備 L=0.60km	42			■			
13 (市)B第503・486号線	自歩道整備 L=0.90km	144	■	■				
14 (一)新方須賀さいたま線(片柳)	自歩道整備 L=0.20km	10					■	
15 (国)122号(加倉)	自歩道整備 L=0.50km	120			■	■	■	R3より個別補助へ移行
16 (市)F第420号線(岸町常盤線)	自歩道整備 L=0.08km	97	■	■	■			
17 (市)32462号線(西郵便局通り)	自歩道整備 L=0.50km	1047		■	■	■	■	
18 (市)12721号線(しらかば通り)	自歩道整備 L=0.30km	0		■				
19 (国)122号(箕輪)	自歩道整備 L=0.70km	297	■	■	■			
20 (市)31626号線(扇通り)	自歩道整備 L=0.10km	38		■	■	■		

1. 計画の概要

事業名（事業箇所）	事業内容	全体事業費 （百万円）	実施期間（年度）					備考
			H29	H30	H31	R2	R3	
21 (主)川口上尾線(東町)	交差点改良	892		■	■	■	■	
22 ゾーン30対策事業	区画線工等、34地区、=1,145ha	350		■	■	■	■	
23 (市)11057号線(東大宮)	バリアフリー	40			■			
24 岩槻中央通り線（市宿工区）	道路拡幅 L=0.60km	96			■	■	■	
25 産業道路（原山工区）	現道拡幅 L=0.40km	1,002			■	■	■	
26 産業道路（原山2工区）	現道拡幅 L=0.60km	6,401			■	■	■	
27 大宮岩槻線	現道拡幅 L=1.10km	1,001			■	■	■	
28 (一)東門前蓮田線・野田線第29号踏切	踏切改良	38				■		
29 本町通り線(鈴谷2工区)	現道拡幅 L=0.80km	639				■	■	
30 (一)鴻巣桶川さいたま線(北袋町)	歩道整備、無電柱化 L=0.70km	52				■	■	
31 (国)463号(間宮)	歩道整備 L=0.10km	66					■	

1. 計画の概要

■事業箇所

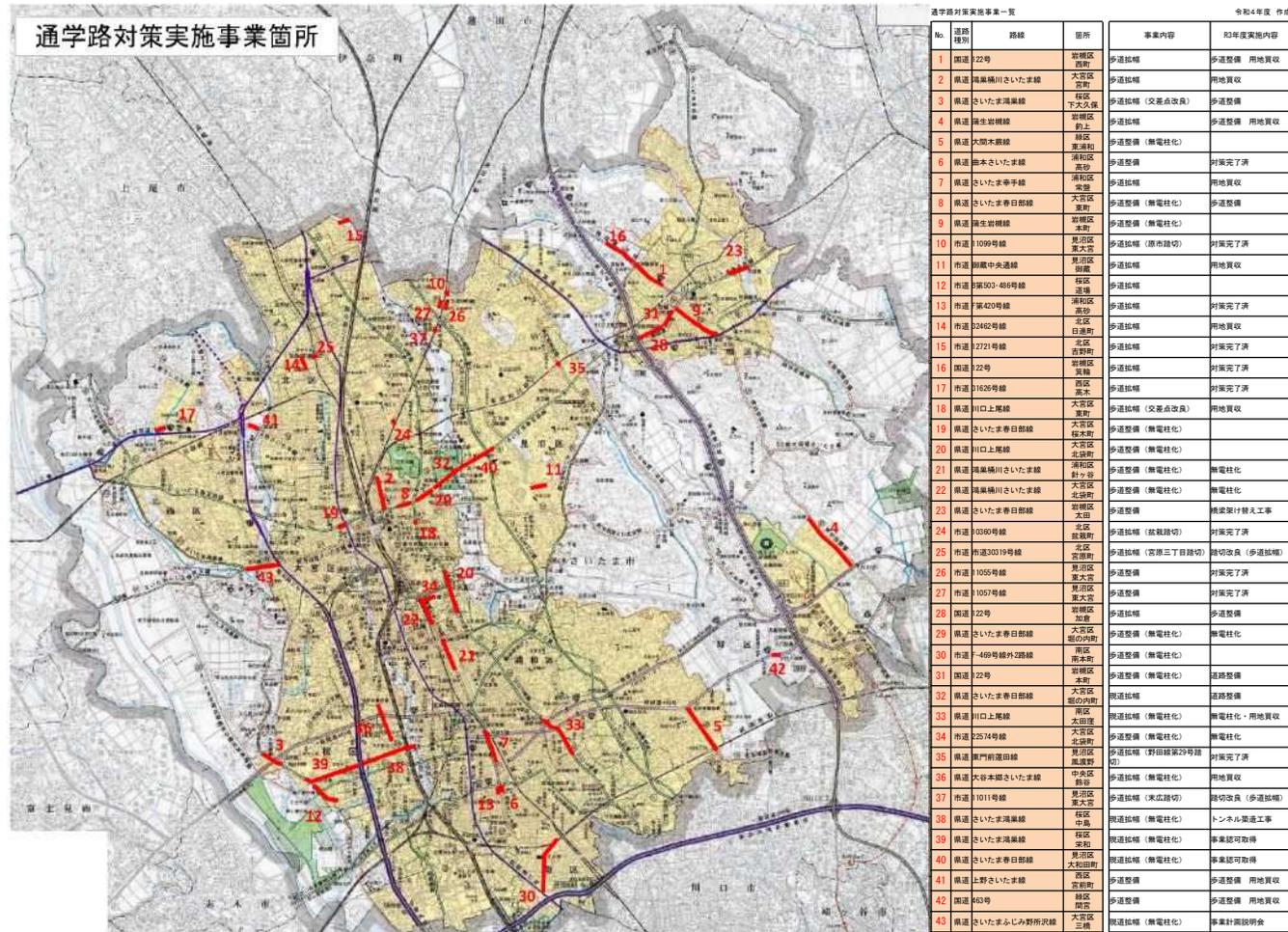


1. 計画の概要

重点配分対象事業について

対象事業	要件
通学路交通安全プログラムに基づく交通安全対策に係るもの	平成25年12月6日付け「通学路の交通安全の確保に向けた着実かつ効果的な取組の推進について」に基づき、基本的方針（通学路交通安全プログラム）に基づく対策に位置づけられたもの

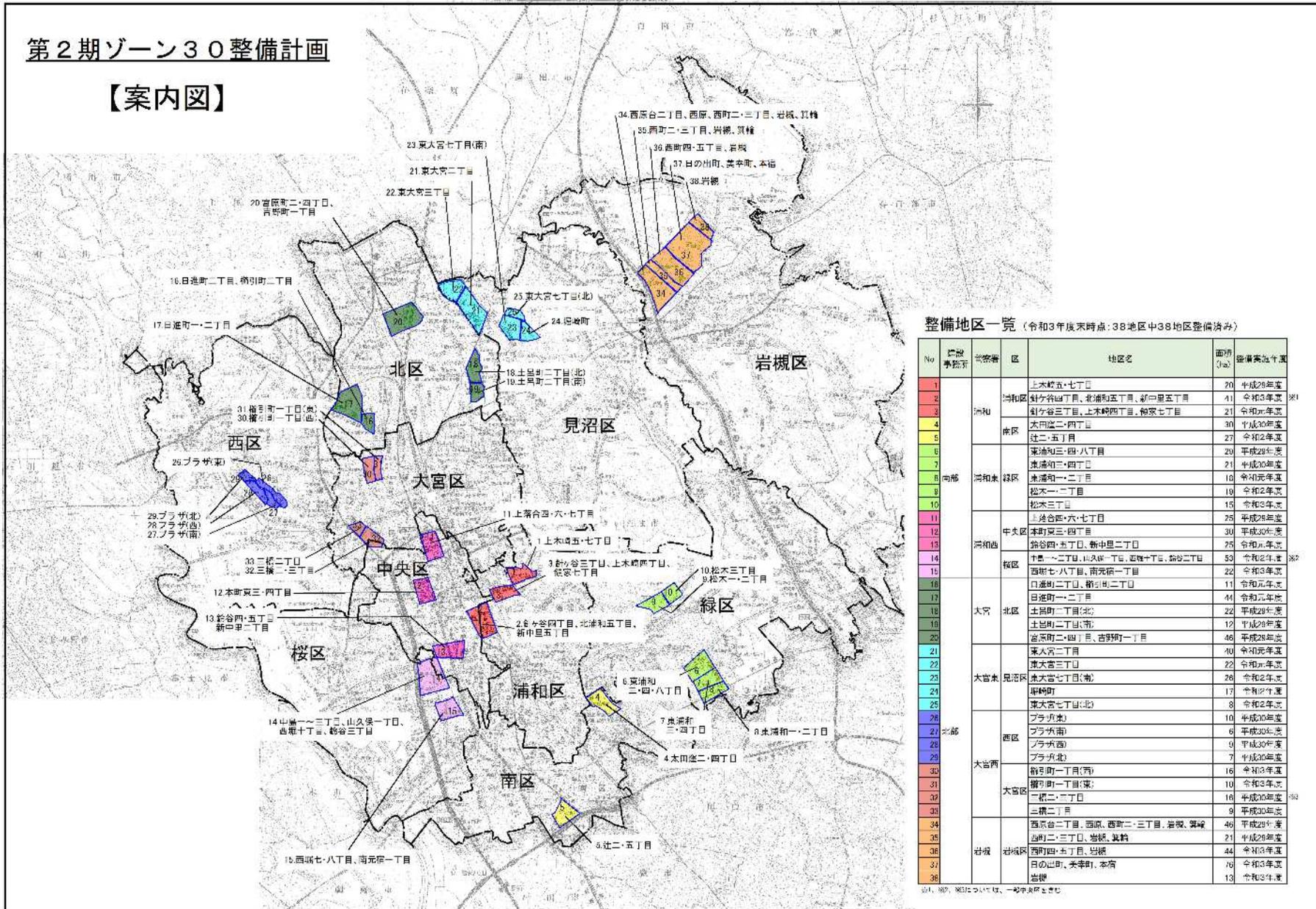
さいたま市通学路交通安全プログラムに基づく対策箇所①



さいたま市通学路交通安全プログラムに基づく対策箇所②

第2期ゾーン30整備計画

【案内図】



整備地区一覧 (令和3年度末時点: 38地区中38地区整備済み)

No.	整備番号	管轄区	地区名	面積 (㎡)	整備完了年度
1		浦和	上木崎五・七丁目	20	平成28年度
2			針ヶ谷四丁目、北浦和五丁目、新中里五丁目	41	令和3年度
3			針ヶ谷三丁目、上木崎四丁目、稲家七丁目	21	令和2年度
4		南区	太田産二・四丁目	30	平成30年度
5			辻二・五丁目	27	令和2年度
6		浦和東 緑区	東浦和三・四・八丁目	29	平成28年度
7			東浦和三・四丁目	21	平成30年度
8			東浦和一・二丁目	18	令和元年
9			松本一・二丁目	19	令和2年度
10			松本三丁目	15	令和3年度
11			上谷四・六・七丁目	25	平成28年度
12		中央区	本町東三・四丁目	30	平成30年度
13			鈴谷四・五丁目、新中里二丁目	25	令和2年度
14		緑区	針ヶ谷一・二丁目、山久保一丁目、西横一丁目、鈴谷二丁目	53	令和2年度
15			西横七・八丁目、南元宿一丁目	22	令和3年度
16			日進町二丁目、新引町二丁目	11	令和5年度
17		大宮 北区	日進町一・二丁目	44	令和5年度
18			土呂町一丁目(北)	22	平成28年度
19			土呂町二丁目(南)	12	平成28年度
20			宮原町二・四丁目、西野町一丁目	46	平成28年度
21		大宮東 見沼区	東大宮二丁目	40	令和元年
22			東大宮三丁目	22	令和2年度
23			東大宮七丁目(南)	26	令和2年度
24			東大宮七丁目(北)	17	令和2年度
25		大宮西 西区	東大宮七丁目(北)	8	令和2年度
26			プラザ東	10	平成28年度
27			プラザ南	6	平成30年度
28			プラザ西	9	平成30年度
29		大宮西 大宮区	プラザ北	7	平成30年度
30			新引町一丁目(東)	16	令和3年度
31			新引町一丁目(南)	10	令和3年度
32		大宮東 見沼区	二橋二丁目	18	平成28年度
33			二橋二丁目	9	平成30年度
34		岩槻 岩槻区	西原台二丁目、西原、西町二・三丁目、岩槻、真砂	46	平成28年度
35			西町二・三丁目、岩槻、真砂	21	平成28年度
36			西町四・五丁目、岩槻	44	令和3年度
37			日の出町、美幸町、本宿	76	令和3年度
38			岩槻	13	令和3年度

※1、※2、※3については、一般市民を対象とします。

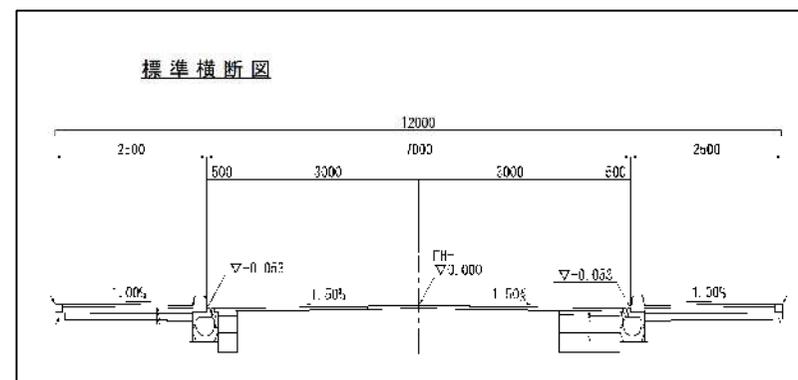
2. 事業の成果

■ (国) 122号 (西町)

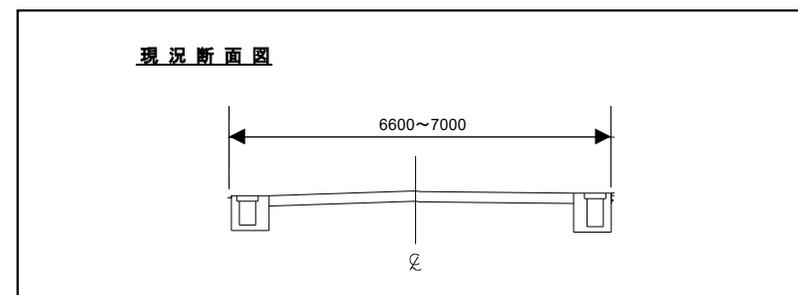
事業期間： H29 ~ R3 (計画： H29 ~ R3)



事業内容	歩道整備 L=0.7km
全体事業費	308百万
総事業費の進捗率	約85%



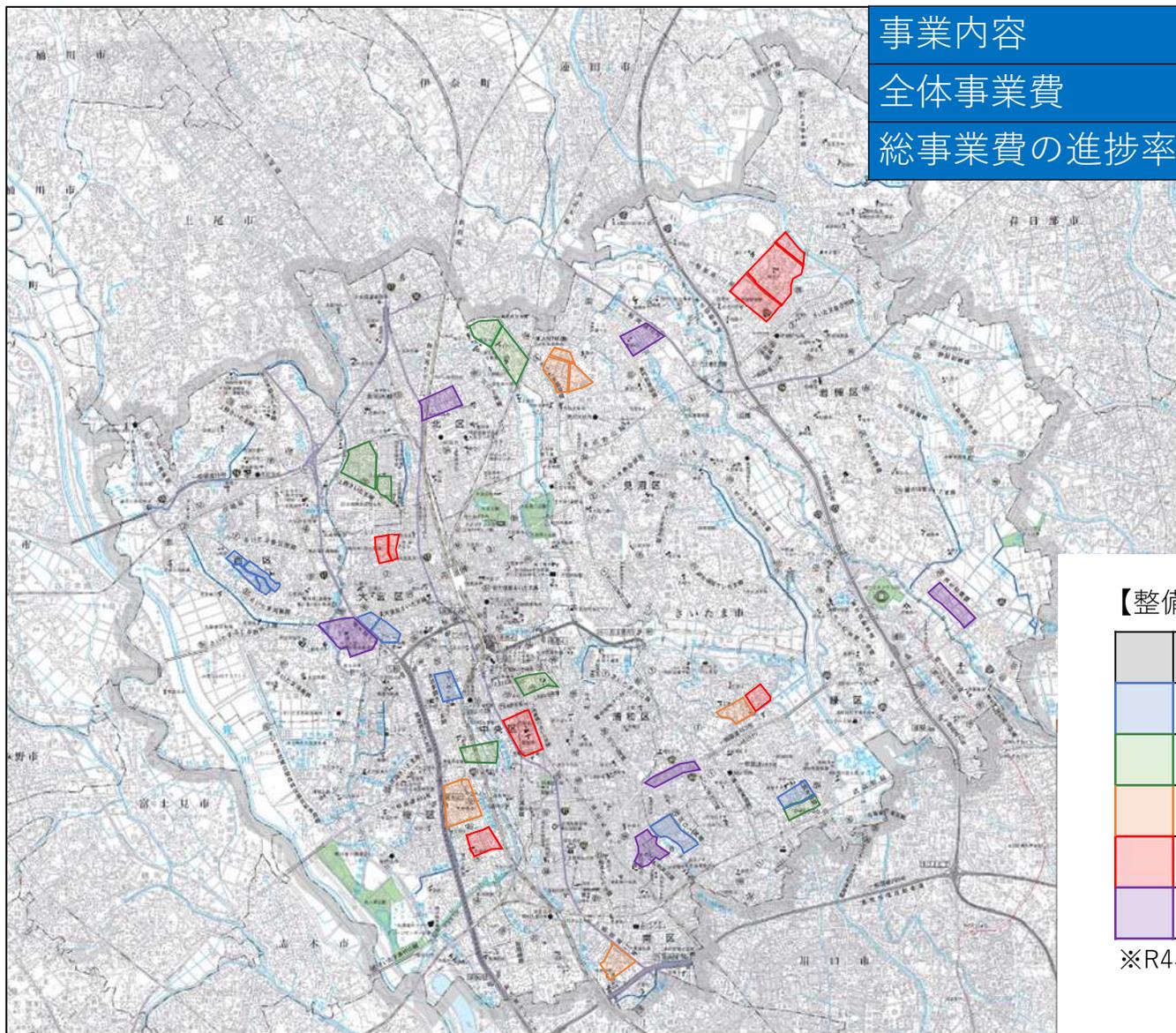
【整備後】



【整備前】

2. 事業の成果

■ **ゾーン30対策事業** 事業期間：H30～R4（計画：H30～R3）



事業内容	区画線工 36地区
全体事業費	350百万
総事業費の進捗率	100%

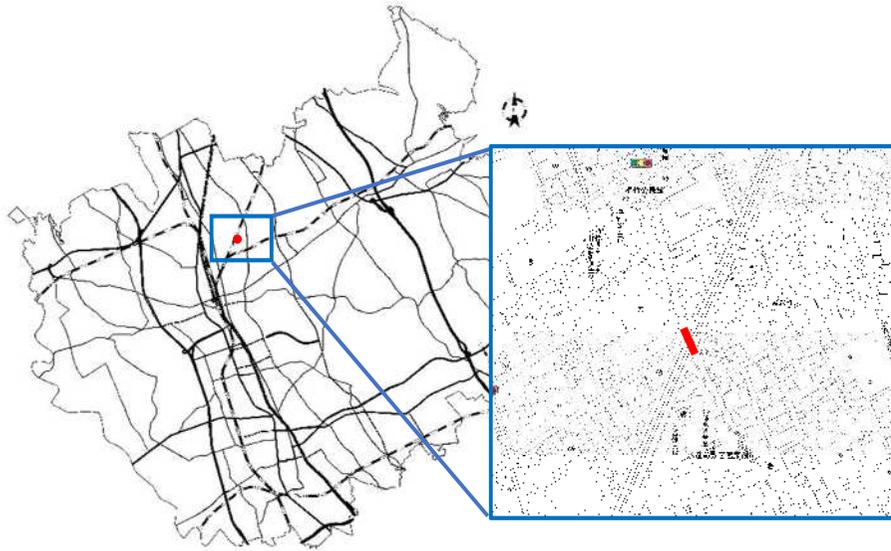
【整備年度・整備地区数一覧】

	整備年度	整備数
	H30	9地区
	R1	7地区
	R2	6地区
	R3	8地区
	R4 (R3補正予算)	6地区

※R4年度はゾーン30プラスの整備

2. 事業の成果

■(市)10360号線・盆栽踏切 事業期間：H31～R2（計画：H31～R2）

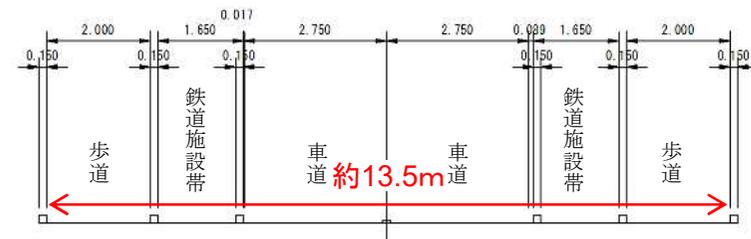


事業内容	踏切改良
全体事業費	230百万円
総事業費の進捗率	100%

【整備前】



【整備後】



3. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

- 指標1：市内における平成24年から平成28年までの5年間における交通事故数の平均値に対して10%低減する。

対象期間内における市内の交通事故件数の低減率

$$= \left\{ 1 - \frac{\text{交通事故件数}}{\text{H24からH28までの交通事故件数の平均値}} \right\} \times 100$$

・目標値の達成状況

当初現況値 (H29当初)	最終目標値 (R3末)		最終実績値 (R3末)
0%	10%減	➡	約40%減

- 平成24年から平成28年までの5年間における交通事故数の平均値である5,038件を基準値として定めた。
- 安全安心な通行空間の確保のため、歩道整備や、ゾーン30の整備を実施した結果、令和3年の交通事故数が3,038件まで減少し、最終目標値を上回る約40%低減した。
- 今後についても、重点配分対象事業である「さいたま市通学路交通安全プログラム」に基づいた対策を、交付金や個別補助を活用し、整備推進に努める。

3. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

■指標 2：緊急に対策が必要な踏切における安全対策実施率の向上を図る。

緊急に対策が必要な踏切の対策実施率

$$\left(\frac{\text{対策実施踏切数}}{\text{対象踏切数}}\right) \times 100 \quad (\%)$$

・目標値の達成状況

当初現況値 (H29当初)	最終目標値 (R3末)	最終実績値 (R3末)
0%	25%	25%

※繰越事業も含む

- 本市の踏切改良事業については、平成28年4月に国土交通省より改良の必要な踏切道として16箇所の踏切が指定されており、その踏切について、順次、踏切道の拡幅など安全対策をすすめている。
- 16箇所のうち、本計画の要素事業である4箇所の踏切について対策を実施し、最終目標値の25%を達成した。
- 令和3年度より創設された国土交通省所管の個別補助事業を活用し、引き続き整備推進に努める。